



CASE
1

県外を視野に入れた展開を

「お茶菓子のナンバーワン」を目指したいという佐藤傳彦社長



[有限会社 落月堂 | <http://www.rogetsudo.com>]

〒019-0503 秋田県横手市十文字町西原一番町 74 / TEL0182-42-0206・FAX0182-42-0553
E-mail : rogetsudo@lemon.plala.or.jp



将来を見据えた展開を模索するうちに 見えてきた「落月」ブランドの新たな展開

「跡取りだから…」から天職に変わる

落月堂は、「しっとりまんじゅう」「すていっくどらやき」などのヒット商品をもつ和菓子屋。3代目の佐藤社長は、近隣のスーパーのみだった取引先を全県・県外に広げ、工場前に直営店を作るなど、新たな取り組みを行ってきた。

取材の際に、佐藤社長が最初に話してくれたのは若い頃のこと。「大学卒業後、東京で就職するはずが、家の都合で急遽、家業を継いだ」。昭和50年代は作れば売れる時代。作業に追われて、菓子づくりの勉強をする時間すらなかったという。やがて「このままでいいのか」という自問自答から、佐藤社長の探求が始まった。「いい師匠に出会い、菓子づくりの技術が科学と結びついていることを知った頃から、家業が俄然面白くなった。今は本当に楽しいよ」と話してくれた。

今年4月1日、秋田駅トピコに開店した立ち飲みバー & 秋田県産品ショップ「あきたくらす」に、立ち上げたばかりの新ブランド「落月」の商品を出品することができた。3月半ばの打診に迅速に対応できた裏には、落月堂が着々とすすめていたある計画が存在した。

新ブランド「落月」で新たな販路を狙う

なぜ「あきたくらす」への出品が可能だったのか。

佐藤社長は、数年前から単発のイベントでお付き合いのあった県外の高級スーパーや百貨店に、商品を常時置いてもらいたいと考えていた。その販路拡大のために、当センターのよろず支援拠点を通じ、専門家の派遣を利用、新ブランド「落月」のパッケージデザインを誕生させていたのだ。

佐藤社長にとって「落月」は「お茶菓子のナンバーワン」。正直な仕事をして、安心して食べてもらえる菓子を作り、お客様に愛してもらう。取り扱い商品はしっとりまんじゅう、どら焼きなどの4種類・複数アイテム。そのためのチャレンジはこれからも続く。



工場に隣接した直営店では、地元でしか買えない「どらロール」などのお菓子も並んでいる。ガラスの奥では工場の様子も見ることができる。現在、新製品「和ちよこ」シリーズを開発中。店頭と並ぶ日も近い。

事業概要 専門家の派遣

企業等が抱える経営・技術・人材・情報等の課題に対し、センター登録専門家を派遣し、診断・助言を行います。

お問い合わせ あきた企業活性化センター/総合相談課 (018-860-5610)まで。